

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第7部門第3区分

【発行日】平成24年3月15日(2012.3.15)

【公開番号】特開2010-193097(P2010-193097A)

【公開日】平成22年9月2日(2010.9.2)

【年通号数】公開・登録公報2010-035

【出願番号】特願2009-34390(P2009-34390)

【国際特許分類】

H 04 N 1/41 (2006.01)

H 04 N 7/30 (2006.01)

H 03 M 7/30 (2006.01)

【F I】

H 04 N 1/41 B

H 04 N 7/133 Z

H 03 M 7/30 Z

【手続補正書】

【提出日】平成24年1月25日(2012.1.25)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0020

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0020】

さらに、S804において、統計情報ScanTotals[n]とScanTotals[n-1]の大小関係を判定する。ScanTotals[n]がScanTotals[n-1]より大きい場合は、変換係数C[n]の位置では、変換係数C[n-1]の位置より有意係数の発生回数が多いことを意味する。そのため、S805において、図10に示すようなスキャン順序に対応する係数の位置ScanOrderとそれに対応するScanTotalsに対して交換処理を施す。また、S802において、統計情報ScanTotals[n]がScanTotals[n-1]以下の場合には、スキャン順序の変更処理は施さない。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0057

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0057】

処理が開始されると、処理S1041において変数nに2が代入される。次に処理S1042において、並列処理数を決定するためのPに最大並列処理数(実施形態では'2')を設定する。この後、処理S1043にて、連続する2つの統計情報の差Dを算出する。

D=ScanTotals(n-1)-ScanTotals(n)+1

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0059

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0059】

一方、P > Dの場合、2つのブロックのスキャン処理を行なった場合、その結果、統計情報内に、昇順となるデータが存在することになるので、それを降順とする必要がある。すなわち、スキャン順を変更して、最大並列数を少なくする必要があるので、処理S1

045にて、変数Pに変数Dの値を代入する。